

＜イチジクの振興方策＞

1 イチジク栽培の現状

(1) イチジク栽培面積の推移

平成10年頃は小牧地区を中心に、現在の農協管内地域で3ha以上の栽培面積があり、市場出荷がおこなわれていた。一時期、春日井地区でも栽培面積が増えたが、栽培者の高齢化と都市化の進展により新規栽培者も少なく、栽培面積は減少傾向である。

表1 イチジク栽培面積の推移(推定)

年 度		H27	H28	H29	H30	R元
面積 (ha)	春日井	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
	小 牧	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
	豊 場	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	合 計	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6

(2) R元年のイチジク栽培者

栽培者は小牧地区に多いが、管内全域で栽培されている。現在の栽培者は、小牧イチジク部会が10名で産直部会が推定であるが15名(桃花台G:5名、春日井G:5名、味美G:3名、高蔵寺G:3名)である。

(3) 販売形態

小牧イチジク部会は、以前は市場出荷であったが、現在はファーマーズへのグループ販売となっている。また、小牧イチジク部会員の多くは、グリーンセンターの会員となっている。

現在のイチジクの販売形態は、ファーマーズやグリーンセンターでの販売が主体であり、一部庭先販売がおこなわれおり地元消費者を対象とした販売形態となっている。

また、小牧イチジク部会を対象に、加工もおこなわれている。

2 イチジク栽培のメリット

(1) 収益性が高い

- ① 早期成園化が可能で、3～4年で成園並みの収益が上げられる。
- ② 大がかりな資材が不要であり、少ない資金で開園が可能である。
- ③ 手作業が多く、大型作業機械が不要であるため、作業機械の管理の維持費が不要となる。

(2) 栽培が容易

- ① 立ったまま作業ができる、低樹高栽培が可能である。
- ② 一文字整枝法という栽培法であるが、人工整枝で整枝法が簡単であり、栽培技術も容易である。
- ③ 栽培が容易であるので、誰でも栽培管理が可能で楽である。

(3) 女性や高齢者でも栽培が可能

- ① 栽培が省力化しており、女性や高齢者でも栽培技術の習得が楽である。
- ② 収穫期の作業が集中するが、重労働が少なく、女性や高齢者でも体力的に栽培ができ労働生産性が高い。
- ③ 10aぐらいなら、夫婦2人で始めることが可能である。

(4) 消費者ニーズが高い果実

- ① 熟度と鮮度で、地元消費者への販売が可能な果実です。
- ② 健康志向に合った果物で、消費者ニーズが高い。
- ③ 手で果皮をむくことが可能で、誰でも気楽に食べられる。

(5) 経営形態

- ① 水田や露地野菜との複合経営が可能である。
- ② 兼業農家でも、女性・高齢者でも栽培が可能であるので、有休地の利活用につながる。

3 イチジク栽培の振興方策

(1) イチジク栽培の推進方策

- ① 定年退職者で、畑地の有休地所有者を対象に推進する。
- ② 高齢者や女性でも栽培が可能な作目であるので、モモ・カキ・ブドウ等の果樹栽培の継続が不可能となった栽培者や、有休農地の有効活用を目的に推進する。
- ③ 農協管内全域で推進するが、重点地区は、小牧市篠岡地区と春日井市大泉寺地区とする。理由は、果樹栽培者が多く、営農が熱心な地域であるのと、有休地ほ場が栽培者の自宅に近い所が多い存在する。
- ④ 当面の推進目標は、栽培面積を3ha以上とする。

(2) 推進する栽培技術

- ① 一文字整枝法による低樹高栽培を推進する。
- ② 10a当たり100本植えとし、畝を立てて植栽する。
- ③ 品種は、榊井ドーフィンとする。
- ④ 熟期促進としてエスレル処理をおこなうのが普通であるが、当農協管内では、エスレル処理はおこなわない方針で推進している。
- ⑤ 栽培技術全般は、一般的におこなわれている方法で推進する。



図1 一文字整枝法

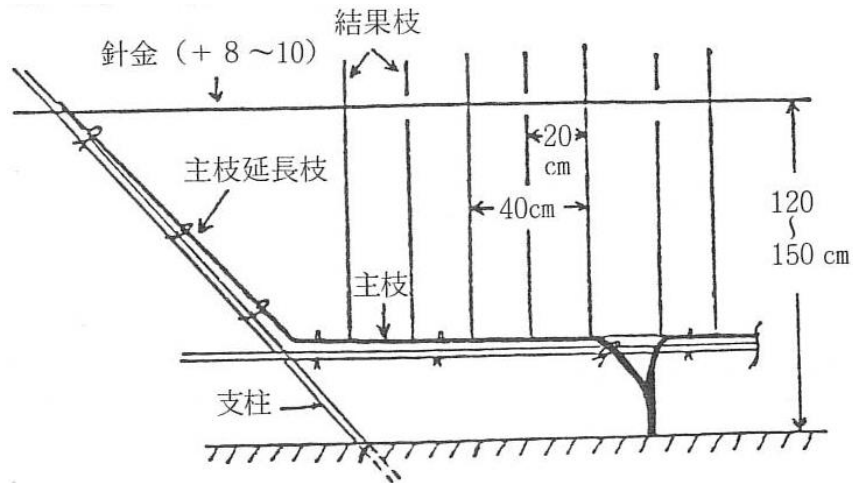


図2 一文字整枝の仕立て方

(2) イチジクの作業体系と労働時間

栽培管理作業は、表2に示したとおりであり、手作業が多いが、収穫期の8月から10月以外は、労働力の分散が図れる。

表2 イチジク作業体系及び労働時間のモデル(10a当たり)

作業体系	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	← 整枝せん定 →					
	施肥	施肥 防除	施肥 防除	施肥 防除	芽かき 施肥 防除	誘引 施肥
	← 栽培管理 →					
主要作業名	1月	2月	3月	4月	5月	6月
整枝・せん定	0	10	26	0	0	0
芽かき・誘引・摘芯	0	0	0	0	5	15
施肥	6	9	3	3	3	6
防除	0	0	3	3	3	9
収穫	0	0	0	0	0	0
その他栽培管理	0	2	3	9	13	29
合計	6	21	35	15	24	59

作業体系	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
	摘芯	施肥	施肥	施肥			
	施肥	施肥	施肥	施肥			
	防除	防除	防除				
	← 収穫 →						
	← 栽培管理 →						
主要作業名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計

整枝・せん定	0	0	0	0	0	0	36
芽かき・誘引・摘芯	6	0	1	0	0	0	27
施肥	3	9	3	0	0	0	51
防除	9	6	3	0	0	0	36
収穫	0	161	219	135	0	0	515
その他栽培管理	9	6	6	1	0	0	78
合計	27	182	232	142	0	0	743

* 愛知県が作成した、経営モデルを現状に合わせて修正した数値です。

(3) 定植後の収益の推移

定植2年目から収穫でき、5年目で成園となるため、成園としての収益が早い。

表2 10a当たり年度別収穫量と所得額(10a当たり)の推移(モデル)

	定植年	2年目	3年目	4年目	5年目以降
収量(kg)	0	1,000	2,500	2,800	3,100
収益額(円)	0	372,600	864,800	920,000	1,014,500

* 収量は、生育状況と秀品率の良い場合の推定数値です。

* 収益額は、経営モデルを参考に修正した数値です。

(4) 初期の経費が少ない

有休地を利用して自分で開園すると、初期経費を少なくすることができる。

表4 開園経費(例)

品目	必要経費(円)
苗木	34,000
堆肥	3,000
稲わら	10,800
炭酸苦土石灰	4,950
BM溶リン	8,950
ほ場整備経費	100,000
諸経費	300,000
合計	461,700

* 10a当たりの植栽本数は、100本植えとした。

* ほ場整備は、自分でおこなうので機械維持費と燃料代で10万円とした。

* 諸経費は、灌水施設や誘引棚として30万円の経費とした。

(5) イチジク経営の収益性

目標とする所得は、表3のように10a当たり100万円とします。条件が良ければ、達

成可能な数値です。愛知県の経営モデルでも、所得が100万円となっています。

表3 収支モデル:成園での10a当たり

	合計(円)
収量	3, 100
単価(円/kg)	700
粗収益	2, 170, 000
(収入合計)	(2, 170, 000)
肥料費	47, 000
農業薬剤費	74, 000
小農具・資材費	289, 000
動力光熱費	45, 000
原価償却費	356, 600
修繕費	42, 900
販売費	173, 000
その他	137, 000
(経営費合計)	(1, 155, 500)
農業所得	1, 014, 500
農業所得率	46%

- * 想定条件は、小牧イチジク部会のグループ出荷や、個人出荷でのファーマーズやグリーンセンターでの良い販売の場合です。
- * 愛知県が作成した、経営モデルを現状に合わせて修正した数値です。

3 販売方法

小牧イチジク部会に参加する場合は、ファーマーズやAコープでのグループ販売をおこなう。しかし、集荷量が多くなれば、部会として市場への共撰出荷も考える。

産直部会員の場合は、ファーマーズやグリーンセンターでの個人販売となる。

4 加工

現在イチジクジャムをおこなっているが、今後とも推進する。